

「えのくま日記」五十三号

平成二十七年十二月 ～ 平成二十八年二月

「鶴見岳霧氷見学」

松本 美香（年長ほし組担任） 日記

年長組は鶴見岳へ霧氷見学に出掛けました。毎日寒かったので、「今日は何行けるかな？」と楽しみにしていた子どもたち。着替えの準備も早く、期待も高まっていました！バスから見る鶴見岳は、少し白くなっていて、子どもたちから自然と『ゆき』の歌が聞こえ、楽しみにしているのがよく分かりました。ロープウェイで山上駅まで、そこから歩いて山頂を目指しました。山道は滑りやすく、二十分程かけて登りました。途中には、綺麗な霧氷が沢山見られました。山頂まで上がると、由布岳も見え、とても雄大な景色でした！その後は、子どもたちが楽しみにしていた雪遊び！友だちや園長先生、バスの先生と雪合戦を、楽しい時間を過ごしました。年長組最後の園外保育で、子どもたちの心に色んな思い出ができました。（一月二十一日）



今朝の「雨がふったら紙芝居」の演目は、昔懐かしい「うらしまたろう」でした。紙芝居の下読みをしながら、「へ〜そうだったのか」と改めてこの物語の懐かしさと面白さに気付かされました。

紙芝居の中で竜宮城の「おとひめ様」が、とても可愛らしく描かれていたので「おとひめ様は誰かに似てないかい」と子どもたちに尋ねると、いろんな可愛らしい方の名前が上がりました。(ご想像におまかせいたします) ここまでは想定内でしたが、一人の男の子が「大平先生」と答えました。「桃太郎バスの大平先生かい？」と聞くと頷きました。この瞬間から、本日の紙芝居の雰囲気は一変し、大爆笑が続き、喜劇「うらしまたろう」となりました。

(十二月二十一日)



「オーロラ姫」

秦 一代 (年少ゆき組保護者) 日記

小さい頃から人見知りが激しく、人前に出ると私にしがみつき、大泣きする娘でした。幼稚園でも周りの声などが大きくなると耳を塞ぎ、委縮してしまいます。しかし、小柄さからくる愛嬌か、周囲の方々から可愛がられて頂いてます。年少さんになり、親や周囲の心配をよそに、どんどん成長していく姿を見ていて心配も少なくなりました。それも年の離れたデイズニー好きの姉がいるお陰だと思えます。

そんな娘の夢は「オーロラ姫」、心優しく美しい女性です。十二月誕生会の最後の番で、周りの声も最高潮！ 怯んで泣いてしまうと心配しました。しかし、自信満々で怯まない姿に感動しました。甘えん坊で、泣き虫でわがままですが、どんな困難があっても周りの支えに感謝し、愛され心優しい女性に成長して行ってほしいと思います。

(十二月二十一日)

☆十二月誕生会で、大きくなったら「オーロラ姫」になりたいと答えてくれた年少さんのお母さんに投稿をお願いいたしました。

「終業式とクリスマス会」

武生 香里 (年少はな組担任) 週案日誌より

今日は二学期最後の日であった。まず最初に終業式に参加した。参加した態度を見て、改めて成長を感じた。

その後は、トナカイの帽子を被りクリスマス会に参加した。記念館へ移動する前からワクワクがとまらない様子であった。会の中では、サンタさんが来たり、歌の発表をしたり、お母さん方や教師の出し物を見たりと盛りだくさんの内容であった。歌の発表では、サンタの鈴を持ち、楽しそうに元気に発表してくれて、私もとても嬉しかった。帰りも準備に追われるところはあったが、ゆっくり話ができて良かった。何よりも一名の欠席もなく過ごせたことが良かった。

(十二月二十四日)

「ありがとう！えのっこクラブ！」



佐藤 由美 (年長ほし組保護者) 日記

今年もやってきました！ えのっこクラブのお母さん方によるクリスマス会での劇。その名も「劇団えのっこ」 今年は「サンタクロースのねがいごと」という年長のいお母さん方の手作りの物語。三人の魔法使い達が、いろんな人の願い事を叶えていくというお話で、今回はスペシャルゲストとして、先生方には内緒で園長先生にも出演していただきました。(ご協力、心から感謝しています)

私は、えのっこ歴六年目ですが、中には九年目というお母さんもいらっしゃいます。三月の卒園とともに、この「えのっこクラブ」を卒業するのは、とても寂しいです。けれどこれまで「えのっこクラブ」を通して素敵な仲間に出会い、子ども達の笑顔を間近でたくさん見ることが出来ました。そして、そんな私達をいつもあたたかく見守って下さった先生方…。本当に、本当にありがとうございました。「えのっこクラブ」で経験したこと全てが私の宝物です！

(十二月二十四日)

「えのっこスペシャルの思い出」

河野 直子（年中そら組・にじ組保護者） 日記

毎年恒例の「読み聞かせボランティア」によるクリスマス会の出し物「スペシャル」に、今年初めて参加させて頂きました。

見習いの魔法使い三人が、絵本の主人公を含め様々な人々（「せんたくかあちゃん」、子どもたち代表、園長先生、「ぐりとぐら」、サンタクロース）の願い事を叶えていくという内容。願い事が一つ叶うたびに子どもたちが歓声を上げていたのが印象的でした。

お世話役さんが少ない全体練習日の中で、効率よく檄を作り上げられるように予め準備して下さっていたことや、メンバーそれぞれが衣装、台詞、小道具に手際よく工夫を加えていたことにより、子どもたちに楽しんでもらえたのだと感じています。私は、変身前の「せんたくかあちゃん」の役をさせて頂きました。かあちゃんの自信のある様子が出せなかったのですが、みなさんのフオローにより、何とか役をこなすことができました。来年度も都合がつけば、スペシャルに参加したいと思います。

（十二月二十四日）



園長日記

「サンタさんは六百三十歳」

終業式後のクリスマス会のサンタさん役は、学園本部の辻本 豊先生でした。辻本サンタは事前に子ども達が、サンタさん宛てに書いていた質問に、とてもユーモアたっぷりに楽しく答えてくれました。

「昔にくらべると煙突のあるお家が少なくなって、サンタさんが来てくれるか心配なようだけど、サンタは魔法の鍵を持っているから大丈夫、良い子のお家にプレゼントを持って行くよ」

「サンタさんの年齢の質問があったけど、サンタの一年は普通の人の十年分なんだよ、だから私の年齢は六百三十歳だよ」

辻本サンタさんは実年齢六十三歳のはず。子どもたちの質問に何と答えるか興味津真で聞いていましたが、見事なユーモアで子どもたちを納得？させていました。六百三十歳のサンタさん、楽しく優しい触れ合いをありがとう。

（十二月二十四日）

「お母さんはお母さん」

甲斐 希世美（全クラスサポート担当） 日記

クリスマス会が終わった後の出来事です。みんなサンタさんにも会え、楽しい出し物を見たりして楽しく過ごしがらキラキラした顔をして教室へ移動している中、一人冴えない顔をしていたSくん。「クリスマス会楽しかった？お母さん出てたね」と言うのと「楽しくなかった。お母さんがいい」と一言。「どうしたの？お母さんも出てくれたよ？」と言うと「変身してほしくなかった。」と。その時に変身していた人物が気に入らなかつたのかなと思ひ「シンデレラとかがよかった？」と尋ねると、「違う、何にも変身してほしくない。Sのお母さんはSのお母さんなんやけん。」と！純粹でかわいいその一言に、ほっこりした一瞬でした。

（十二月二十四日）



園長日記

「三学期始業式 二話」

☆一話「あけましておめでとーございませう。ことしもよろしくおねがいします」

三学期始業式に臨んだ子どもたちに、様子先生が「みなさんは、お正月でお家の人とごあいさつをしましたね、何と言ったのかな、みんなで言ってみましょう」と伝えると、多くの子どもたちが大きな声で一斉に「あけましておめでとーございませう。ことしもよろしくおねがいします」と言うことができました。立派なあいさつに、思わず手をたたいて子どもたちを褒めました。新春の嬉しいサプライズでした。

☆二話「けんめい」

始業式の話の中で、子どもたちに、毛筆で書かれた「懸命」の文字を見せました。幼稚園の先生達が、今年目標としているキーワードです。勿論、子どもは読めません。でも、「もくひょうを持って、がんばるときに使う言葉だよ、いっしょよ・・・？」と伝えると、多くの手が上がり「けんめい」と答えることができました。三回、全員で復唱し、これから発表会やマラソン大会、縄跳びなどに「けんめい」に頑張ろうよと伝えました。

(二月八日)



「三学期始業式での体験発表」

始業式では、クラスの代表が一人ずつ楽しい「体験発表」をしました。

☆年少ひかり組S君

「映画館に行き、えんま大王の映画を観ました」

☆年少はな組Sちゃん

「クリスマスでパパがサンタさんになりました。サンタさんから、おもちゃをもらいました」

☆年少ゆき組K君

「大分と熊本のおじいちゃん、おばちゃんに会いに行きました。一緒に遊んだり面白い物をしました。」

☆年少みどり組Sちゃん

「おばあちゃんの家に行きました。おもちゃと一緒に遊びました」

☆年中じ組K君

「縄跳びが十八回できるようになりました。前は八回しか跳べませんでした。映画をじいじとお兄ちゃんと観に行きました」

☆年中ことり組Mちゃん

「おばあちゃんの家の畑で、にんじん、大根、はくさいを抜きました。味噌汁にして食べました。おいしかったです」

☆年中そら組D君

「パパと二人で、くじ引き(おみくじ)をして楽しかった。お年玉をもらったのが嬉しかった」

☆年長つき組Sちゃん

「お料理のお手伝いをしました。カマボコを切り、おせち料理をつくりました。縄跳びで二重跳びが出来るようになりました」

☆年長なぎさ組R君

「おじいちゃん、おばあちゃんの所に一人で行きました。お友だちと遊びました」

☆年長ほし組Rちゃん

「おばあちゃんの所でスゴロクをしました。スケートもしました」

(二月八日)



「三学期のスタート」

波多野 幸子(副園長・教頭) 園日誌より

本日より三学期がスタート。とびきり寒い日となった。曇り空であったが、予定していた集合写真の撮影を行った。今年少しでも子どもの顔がわかるように、学年毎に分けて撮影し、その写真を入れて新年挨拶文書を配布した。寒い中ではあったが、みんな元気に顔を揃えることができ、子どもたちにとっても、いい弾みになった。

十時三十分から始業式。園長先生が今年のキーワード「懸命」を子どもたちに紹介。何事にもがんばるように話しをした。クラス代表発表では、年長のSちゃんが、おせち料理のかまぼこを切ったり等、お正月らしい内容のものが聞けた。修了記念写真もスムーズに進行し三十分程度で終了した。

(二月八日)

「鏡開きドキュメント」

園長日記

楽しい新春行事「鏡開き」が行われた午前中の動きを、紙面の関係でドキュメント風にまとめてみました。大変な慌ただしさでしたが、とても充実したひと時でした。

- ☆午前四時・・・起床、戸外で夜空に輝く星を見る。「今日は鏡開き可」を確信。
- ☆午前七時・・・職員室で準備開始。先生達が切ったタクワンの匂い漂う。
- ☆午前七時五十分・・・OBS取材の血あり。「今日の取材はない」と思っていただけに驚く。
- ☆午前八時・・・餅焼き用の薪を一輪車で運ぶ。加島先生が大量の薪を用意。
- ☆午前八時四十分・・・薪に火をつけ一時間、餅焼き用の熾きをつくる。
- ☆午前十時・・・香里先生、楽しく盛り上げ進行。三人の園児が木槌で鏡餅を叩く。
- ☆午前十時二十分・・・三百個の餅焼き開始。焼けた餅を汁粉に入れ、クラスで食べる。
- ☆午前十時二十分・・・教頭さんより汁粉の差し入れあり。餅を入れ食す。「美味！」
- ☆午前十一時二十分・・・学年毎に綱で園バスを引く。「動いた！」グラウンドで大歓声。
- ☆午前十一時五十分・・・OBS放映、破顔一笑。年長男児インタビュー「お餅は食感がいい」

以下省略

(二月十二日)

「締めくくりの学期」

波多野 幸子 (副園長・教頭) 日記

平成二十七年度・最後の学期がスタートしました。二学期の終業式から約二週間ぶりでしたが、始業式で再会した子どもたちをとて頼もしく感じたのは私だけではありません。先生方も口々に「ずいぶん大きくなったよね」と、改めてその成長ぶりに驚いていました。クリスマスにおせち、お店ではもう節分の商品が並び、世の中の流れは先へ先へと急ぎ足です。私たちもその流れに乗っかって日常を過ごしています。幼稚園はそうであってはいけません。先を急ぐあまりに、目の前の姿は案外見えていないのかもしれない。締めくくりの三学期、子どもたちの素晴らしい今の姿を見逃すことのないよう、しっかりと目と心で受け止めたいと思います。

(二月十二日)

「連続のテレビ取材」

園長日記



鏡開きの終了した日の午後「TOSさんより明日、TV取材の申し込みがありました」との連絡を教頭さんより受けた。翌日には、大きな行事の予定はなく不思議な感じがして、取材目的を尋ねると、これからインフルエンザの流行期に入るので、感染防止にむけて園が取り組んでいる状況を取材したいとのことだった。

ちょうど一年前の今の時期は、インフルエンザが猛威を振り出した頃で、数クラスは学級閉鎖にせざるを得ず「親子なわとび大会」や「発表会」は大きな影響を受けた。今年も、今のところ発症者はいないが、流行期に入ったとの県の発表がなされたので、これから十分に注意しなければならない。夕刻の放映では、年長さん達が二日連続で登場し、可愛らしく手洗い、ウガイをしている様子が紹介された。

(二月十三日)

「初めての縄跳び大会」

二宮 綾子 (年中にし組保護者) 日記

今回、娘にとっては初めての縄跳び大会参加となりました。とても楽しみにしていたよう

で、家でも縄跳びを練習する姿をよく見ました。家では、連続して跳ぶ事がなかなか出来ていなかったのですが、あまり跳べないんだろうな一

と思っていました。本番では、連続して何回か跳べるようになっていたので嬉しく思いました。行事の度に成長する姿を、とても嬉しく思います。その後の、保護者の縄跳び大会では、必死になってついつい無理して跳んでしまいました。が・・・思っていたよりキツく、ゼエゼエなっていました。(笑) 平気な子どもたちは、

やっぱり凄いな〜と感心させられました。来年も連勝できるように、たまには娘と一緒に跳びたいと思います。(笑) (一月十四日)

※年中にじ組の保護者チャンピオンになられた二宮さんに投稿をお願いしました。



「年長さんの一週間」

松本 美香 (年長ほし組担任) 週案日誌より

☆一月十二日(火) 鏡開き・英語教室・グループ発表

鏡開きでは、話を聞きながら、お餅を焼いている様子も見ることができ良かった。園バスの綱引きは、思っていた以上に動いて、子どもたちは凄く喜んでいました。英語教室では、いつも同じ子しか前に出ないので、それが気になっている。間違ってもいいので、やってみようという積極性を持って欲しい。これからの関わり方を考えていきたい。

☆一月十三日(水) 鍵盤ハーモニカの練習

三クラス一緒にホールで鍵盤ハーモニカの練習をした。「お家の人に、みんなで演奏しているところを見てもらおう」と声を掛け、進めていった。ホールなので、並び方から考えたので、少し時間がかかってしまった。でも、冬休み中に練習したのか、みんなすごく上手になっていて、音が揃うようになったと感じた。

☆一月十四日(木) カルタ作り・カルタ遊び

ほし組のカルタを作ろうと話して、作り進めた。グループの友だちと話をし、読み札の内容を考えた。なかなかアイデアの出ないグループもあったが、一緒に考えていくと、面白い物ができた。内容に合った絵を描くのも上手にできていた。午後から、そのカルタで遊んでみると、すごく盛り上がり楽しかった。また時間を見つけて遊んでいきたい。

☆一月十五日(金) 硬筆・鍵盤ハーモニカの練習・縄跳び

硬筆は、たくさん字があつたが、凄く集中して書く姿が見られた。教室がとても静かになり、一字ずつ丁寧に書く様子に成長を感じた。鍵盤ハーモニカの練習も、みんなが自信を持って取り組んでいるのを感じた。縄跳びは、時間内でどれくらい跳べるかやってみた。縄跳び大会では、その回数を越せるよう頑張つて欲しい。

☆一月十六日(土) 自由登園日

半分が休みで、十五名しか登園していなかった。天気も良く、思い切り遊ぶことができていた。お正月遊びの最後の日だったが、羽根つきやコマまわしをして遊んだ。年長児は、羽根つきも上手にできていた。なかなか遊ぶ機会はないので、良い時間を過ごせたと思う。

「ミニコンサート」



梶間 菜摘 (年少ゆき組担任) 日記

朝の自由遊びの時間、「先生ちよつとここに座ってー」と、ゆき組の女の子Mちゃん。私が座つたことを確認すると、Mちゃんはそのままでどこかへ行つてしまい、しばらく座つて待っているところからホッピングを引きずつてやって来て、私の前に立つとホッピングをスタンドマイクに見立て、歌いだしました。

両手でマイク(ホッピング)を持って、まるでアイドルのように可愛らしい歌を披露してくれました。一曲歌い終わりと、拍手をすると、照れながら「じゃあ、次。」と、二曲目を披露してくれました。その後もマイクを引きずつては色んな先生に歌声を披露するMちゃんの姿に思わず笑ってしまいました。寒さも忘れて聞き入ってしまうほど上手で可愛らしかったです。また、ミニコンサートが開催されることを密かに待っています。(一月十五日)

「子どもの心に火をつけよう」

園長日記

幼稚園の子どもたちを見てみると、実に楽しくなります。私は三十七年間、高校教育に携わってきましたが、幼稚園で子どもたちと過ごす日々は、これまでとは大きく異なり、教育の素晴らしさや、子どもの成長や可愛らしさへの感動を感じています。

子どもたちとの触れ合いは、体力的にきつい時もありますが、不思議なもので連休が続くと、無性に子どもたちに会いたくなります。元氣潑刺としていた高校教師の時には、連休がひたすら嬉しかったのを考えると、幼稚園の子どもたちの人を引き付けるパワーの強さや可愛らしさに驚いています。そんな子どもたちが、友だちと仲良く協力し、物事に真剣に取り組むことは、とても大切です。二月の発表会が近づき、先生達に「子どもの心に火をつけよう」、そのためには、まず教師が「自らの心に火をつけようよ」と話しています。

(二月十六日)

「ぼかぼか広場」

園長日記

晴天となった土曜日は、「ぼかぼか広場」の日でもありました。園庭で在園児とともに未就園児の親子も十数組参加し、ぼかぼか陽気の中、楽しく触れ合いました。

十一時からパネルシアターが、ひかり組のテラスで行われました。武生香里先生と内藤紀央先生が息のあった語り口で、楽しくお話を展開しました。お正月のお餅を、ウサギさんとペンギンさんが焼くのですが、「ふくらめ、ふくらめプップのプー」が魔法の呪文です。子どもたちも一緒に大声で呪文を唱えました。すると、お餅が膨らみ、その中からキリンさんやトラさん等、いろんな動物さんが出てきて「ぼかぼか広場」のパネルシアターは大盛り上がりとなりました。

(二月十六日)

「成長を感じた なわとび大会」

財前 有美香 (年長なぎさ・年少ゆき組保護者) 日記

冬休み明け最初の行事、年長親子なわとび大会は、天候が悪く、なぎさ組はホールでありました。何事も最初から「できないもん」と言い、すぐに諦める息子は、冬休みもほとんど練習せずに終わり、なわとび大会がとても不安でした。

でも本番では、何度引っ掛かっても諦めずに、時間いっぱい最後まで頑張って跳び続けた息子の姿を見て、とても嬉しく思いました。年少の時は十回も跳べずに、泣きながら参加していたのに、年長になり連続して跳べるようになっただけでも、息子の成長を感じることができました。また、私も年少の時は、妊婦で跳べず、年中ではパパの体力には勝てませんでした。最後の年長では一クラスだけなのもあり、優勝することができ「ママすごいね。がんばったね」と息子も喜んでくれ、年長親子なわとび大会は、とても良い思い出になりました。

(二月十八日)

※年長なぎさ組で保護者チャンピオンになられた財前さんに投稿をお願いしました。財前さんは、翌日の年少ゆき組の保護者チャンピオンにもなられました。連日の快挙。すごいです。ご苦労さまでした。

「親子なわとび大会を行いました」

山田 恵 (年長つき組担任) 日記



一月十四日(木)に年中組、十八日(月)に年長組、十九日(火)に年少組が親子なわとび大会を行いました。とても寒い中ではありましたが、親子で元気に準備体操をしてから、なわとびチャレンジを行っていました。毎日寒さに負けず、外でチャレンジカードに取り組んだり、冬休みの間になわとびの練習をしてきた子もいて、それぞれ音楽が終わるまで諦めずに一生懸命跳んでいました。頑張った子どもたちに、おうちの方が今年の干支のさるのメダルをかけてくれました！子どもたちの後は、おうちの方もなわとびチャレンジです！「ママ、がんばれ〜！」「パパ、すごい〜！」と一生懸命に応援する子どもたちの声援が響き渡り、とても盛り上がりました。そのあとは各学年とも親子でふれあい遊びをして笑顔いっぱい行事となりました。

(一月十九日)

昨日の無理が祟り、今日は全身が筋肉痛です。自分の鈍った体にはがっかりしましたが、運動会でもないのに子どもと楽しく体を動かし、お友達のお父さん・お母さんともお話ができ、子ども以上に楽しませて頂きました。

私達でさえ、このような機会は新鮮で気分転換になるので、子どもたちは、いつも幼稚園で色々な事を学んで成長しているのだろうなと感じます。幼稚園に通い、十ヶ月が経ちますが、ただでさえ目まぐるしい子どもの成長が、この十ヶ月は特に顕著でした。仕事帰りに妻から聞く幼稚園の話は面白く、遊び疲れた子どもの寝顔は、次の日の励みになります。あつという間に、もうすぐ年中ですが、お友達と一緒にこのまま元気に成長して欲しいです。最後に、来年の縄跳び大会は追われる立場となります。万全の準備を行い、二連覇を目指したいと思います。(笑)

※年少みどり組の保護者チャンピオンになられた森崎さんに投稿をお願いしました。

(二月二十日)

「霧氷見学三話」

園長日記

一話「鶴見岳雪合戦」

ロープウェイで山上駅に着くと、気温はマイナス三度でした。しかし、着こんでいる関係か、それほど寒さを感じることなく、子どもたちは雪を踏みしめながら坂道を十五分ほど歩き、鶴見岳山頂に到着しました。

眼の前に雪を頂いた由布岳や、南に久住連山を望む雄大な大自然の中で、雪合戦が始まりました。援軍となるはずのバスの先生達の到着が遅れ、標的は園長一人、奮闘むなしく数十発の雪玉を被弾し、あえなく敗戦となりました。



二話「園バスの中で①」

往復のバスの中で、子どもたちからの「えんちよう先生、クイズだして」「問題だして」のリクエストに応えましたが、行きも帰りも驚かされました。行きの驚きは「じゅげむ」でした。発表会で年長つき組が「じゅげむ」をすることを、昨日、恵先生から聞いていたので「世界一長い子どもの名前はなんだ」と質問すると、多くのつき組の子が一斉に「じゅげむ、じゅげむ、ごごうの、すりきれ・・・ばいばいばい」と延々言い始めたのは、大変驚かされました。

三話「園バスの中で②」

帰りの園バスでの驚きは、なぎさ組・ほし組の子どもたちでした。子どもたちには、それぞれ得意分野があり、マニアックなリクエストが多数寄せられました。「電車にめちやくちや詳しい子」「しりとりが得意の子」「暗算で百二十八たす百二十八が出来た子」「掛け算が出来る子」「英語の単語が得意な子」等々でした。驚いて何故そんなに出来るのかと尋ねると、兄弟で遊び感覚でやっているとのことでした。恐るべし、子どもたち。六十二年前の私は、全くそんな事はできず、ひたすらチャンバラ、竹馬、トンボ取り、パッチン、ビーロン、相撲、こま回しに明け暮れる日々だった事を思い返しました。(二月二十一日)

「ママへのお土産」

園長日記



年長さんたちが、昨年の上旬に園畑に一人ずつ種まきして育てた大根を、本日、収穫しました。クラス毎に大根畑に並び、引つ張り抜いていきました。「先生、見て、見て、大きい！」の歓声が次々にあがり、バスの先生が計量すると全て一キロ以上、中には二キロを超える大物もありました。寒い冬場に育ってくれた大根さんに「子どもたちを喜ばしてくれてありがとう」の思いとともに、収穫を終えた畑を見て、年長さんの野菜作りも今回が最後、卒園が近づいたなど、少し寂しさも覚えました。

私は、野菜の収穫の日に、いつも楽しみにしていることがあります。それは、畑で子ども

たちの嬉しそうな大歓声や笑顔を見聴きすることや、自分で育て、収穫した野菜を大切にビニール袋に入れ、最愛の人へのお土産として持って帰る子どもたちの、何ともいえない嬉しそうで得意げな表情を見ることです。「ママへのお土産だね。ママが喜ぶぞ！」と声を掛けた時に見せる子ども表情は最高です。(一月二十二日)

「お寿司屋さん」

岩武 まどか(年少みどり組担任) 日記

みどり組は発表会のダンスで男の子が『スシ食いねェ!』を踊ります。発表会に向けて子どもたちは日々、頑張って練習に取り組んでいます。

先日、男の子のダンスの衣装を見せると、「かつこいいい!」「お寿司屋さんみたい!」と声が上がリ、いつもよりも楽しんで踊る姿が見られました。自由時間の時に、「もう1回衣装を着たい」と言われ、衣装を渡すと、折り紙で作ったお寿司をテーブルに並べて「いらっしやーい」とお寿司屋さんごっこを始めました。えび・いくら・たまご・まぐろ等たくさんのお寿司があり、友だちも「マグロください」とお客さんになったり、一緒に衣装を着てお寿司屋さんになりきったりと、とても楽しんでいました。また、『スシ食いねェ!』の歌に出てくるお寿司を友だちと「どんなお寿司か知っている?」と話し合う姿があり、お家に帰ってから絵本を見て調べたり、お寿司屋さんに行って実物を見たりと、お寿司に興味を持つ子が増えました。子どもたちに愛される曲になり、とても嬉しいです。(一月二十一日)

「コタツムリ」

末田 祥子(年中そら組担任) 日記

「Yねえ、お家に帰るとコタツムリになっちやうんだよ」とYくん。えっ!?!カタツムリ?コタツムリ?聞き間違えたかな…と思いい、もう一度聞いてみました。やっぱ「コタツムリ」。『♪ゆき』の歌詞に出てくる「♪ねこはこたつでまるくなる」の状態なのかな?と勝手にイメージして笑ってしまいました。

初めて耳にした「コタツムリ」は、Yくんの家庭でつくられた言葉なんだろうと思いつながら、何気なくインターネットで調べてみると、色々という意味が出てきました。私が今まで知らなかった言葉であって、「コタツムリ」という言葉があったことに衝撃を受けました。普段、子どもの姿から学ぶことは多いですが、子どもから言葉を教えてもらう経験はあまりないので、こたつを見るたびYくんを思い浮かべるのだらなと思えました。(一月二十五日)



「氷」

塩月香菜子(年少ひかり組担任) 日記

すごく寒い日の朝、年少のトイレの前にある水道を見てみると、垂れていた水が下で凍って、歯形のような形になっていました。それを見た子どもたちは「怪獣の歯みたいだね!」「何でこんな形で凍っているの?」と興味津々で見っていました。また、園庭や砂場では水溜りが凍っていて、子どもたちがなんとか割ろうと試行錯誤したり、取れたときは満足そうにしていたりしていました。

ひかり組のある男の子は、どこで見つけたのか、氷をハンカチに大事そうに包んで登園してきました。それを見やすいようにゼリーのカップに入れると、「蓋をしないと溶けちゃうよ!」「ドアを開けたら(暖房の熱で)溶けちゃうからちゃんと閉めて!」等と言いい、とても大事そうにしています。

季節に触れ合う子ども達の嬉しそうな姿やリアクションがとても微笑ましかったです。

(一月二十五日)

「歌が上手なほし組さん」

松本 美香(年長ほし組担任) 日記

一月になってから、毎日、朝の会の時に発表会の歌を練習しています。普段の朝の歌の時は、ふざけてしまう子どもも多いのですが、お気に入りの歌の時は、すごく上手にうたって

います。

今年の発表会では、子どもたちも私も大好きな『にじ』と『世界中の子どもたちが』を歌います。練習の歌声を聞いていると、とつても上手に歌うのでピアノを弾きながら、思わずウルツとなってしまふ事もあります。また、最後にみんなで歌う『にじのむこうに』も、子どもたちのお気に入りになりました。発表会でのほし組さんの歌声を楽しみにして下さいます。
(一月二十六日)



「もうすぐ五歳」

庄 恵理奈 (年中にじ組担任) 日記

クラスの子どもたちも続々と誕生日を迎え、「もうすぐ誕生日くる!」「もう五歳なんで!」などという声が多く聞かれるようになりました。

そんな中、もうすぐ誕生日がくる事を楽しみにしているK君。給食の時間は毎日のように、教室の壁面の誕生日表を指さしては、「俺、もうすぐやあ〜!」と期待に胸を膨らませていました。誕生日が近づいてくると少しずつ、「もう五歳になるけん先生せんていいよ!自分でする!」と今までにない、自信に満ちた表情で、色んな事に意欲的に取り組むK君の姿にとつても嬉しくなりました。大人になると、『一つ大きくなったから〇〇を頑張ろう!』という気持ちはなかなか持てないものですが、子どもにとっての『一つ大きくなる』という事はとても特別な事なんだなあと改めて感じました。もうすぐ迎えるK君の誕生日、楽しい時間となるよう、私も他の子どもたちと一緒にお祝いしたいと思います。
(一月二十七日)

「涙と笑いのお誕生会」

平塚 さとみ (年長みどり組保護者) 日記

毎日、「何で灯馬の誕生日は遅いん?灯馬の誕生日会はまだかな〜」と、親子で待ちに待ったお誕生日会でした。

敢えて、直前には将来の夢を聞かず、一週間前くらいは、「ビルが壊れた時に、修理する人」でした。当日は、お誕生日の帽子を被って手を振りながら入場してくる姿を見ただけで「大きくなったな〜」とウルウル。夢を聞いたら更に泣いてしまうかとも思っていました。いよいよ灯馬の順番。ビデオを構えて待っていると「大きくなったら何になるのかな?」に「地球が爆発したら火を消す人です!」と答えました。えっ! 何それ!。初めて聞いた!驚きと笑いでビデオはブレブレでした。

全体的には、年長さんになると、座って見る姿も最後まできちんとできていて、さすがだな〜と感じました。家に帰ってから、そういえばパパと前日に宇宙の凶鑑を熱心に見ていたな〜と思いいました。楽しい時間をありがとうございました。
(一月二十八日)

「一月お誕生会」

波多野 幸子 (副園長・教頭) 園日誌より



一月お誕生会の入場曲はカレンダーマーチ。子どもたちに馴染み深く、テンポもいいので自然に歌い出し、年少児も誕生会にしっかりと参加できていた。さすがに三学期の誕生会の雰囲気だと感じた。

子ども一人ひとりの発表も歌声も、ホール一杯に響き渡り、改めて誕生会の盛り上がりを感じた。武生先生の「雪だるま」の出し物は、季節感にぴったりと合い、みんなで「雪だるま」を完成させたことを喜び、幼稚園の月一回の大切な行事だと改めて感じた。
(一月二十八日)

「まんじゅうこわい」

山田 恵 (年長つき組担任) 日記

子どもたちにはまだちょっと難しいかな、と思いつつもいろいろな落語のお話載っている本を置いておきました。

面白いこと大好きな子どもたちの間でちょっとした落語ブームが起きました。ある日、

Mちゃんから「けいせんせいこわい！けいせんせいこわいから、絶対おうちにあそびにこないで〜！」と言われました。皆さん、『まんじゅうこわい』のお話を知っていますか？「若い者の雑談の末に、こわいもの話になる。蛙がこわい、蛇がこわいなどという中で、まんじゅうがこわいという男がいて、まんじゅうと聞いただけで気持ちが悪いと寝込んでしまう。みんながまんじゅうを買ってきて男の枕元に並べると、ペろりと食べてしまう。〈畜生、一杯食わせやがった。やい、本当にこわいのはなんだ？〉〈濃いお茶が一杯こわい〉」というお話です。

「まんじゅうこわいのお話読んで〜！けいせんせいこわい〜！」とのことでした。お話を理解した上での「こわい」でほっとした私でした。

そんなつき組は発表会の劇で、落語でおなじみのじゅげむをします。楽しみにして下さい！
(一月二十八日)

「お気に入りの一枚」



武生 香里 (年少はな組担任) 日記

一月の誕生会で、はな組は、歌の発表をしました。ステージに上がった時は、みんなに注目されて、ちよっぴり緊張気味の表情でしたが、歌い始めると、本来の元気の良さが十分に発揮されていました。

HPを作るため、誕生会の写真を見てみると、大きな口を開けて、一生懸命歌っている子どもたちの姿を映した写真を見つけました。ピアノの位置から見る表情とは、また異なってみえました。その写真を眺めていると、今にも子どもたちの歌声が聞こえてきそうで、私にとってお気に入りの一枚となりました。子どもの時、その時、一瞬、一瞬の姿を記録として残せる写真って、いいなあ・・・と改めて感じました。
(一月二十九日)

「子どもは鏡」

宮本 博美 (年中こどり組担任) 日記

三学期に入り、大きな行事『発表会』の練習が始まりました。毎日、劇や歌、ダンスの練習と子どもたちは全身で様々な表現をしています。練習が進むに連れ、自分の役になりきったり、普段は大人しい子どもも大きな声で発表したりと違った一面や成長を感じています。台詞や振り付けも覚え、気持ちも高まってきた二月…。自由遊びの時間に曲を流すと、自然と子どもたちが集まり『発表会の練習ごっこ』が始まります。沢山の子どもの前に先生役が一人。大きな声で振りの指示を出したり、踊り終えると子どもたちを集めて「上手だったよ」。今日の丸はこのくらいかな？」と手で本日の出来を評価したり…。子どもたちのごっこ遊び姿を見ながら、普段の自分の姿を感じて恥ずかしい気持ちと、子どもたちからはこんな風に見られてるんだなど改めて自分の保育を見直すいい機会になっています。発表会まであと少し。子どもたち一人ひとりが輝けるよう楽しく指導していきたいと思えます。
(二月二日)

「大好きな時間」



内藤 紀央 (年長なぎさ組担任) 日記

発表会の本番が近づいて来ました。なぎさ組では女の子がダンス、男の子が和太鼓をします。女の子は、ダンスの振り付けが大好きで、とびきりの笑顔で踊っています。

そんな女の子の振りを、お客さんになって見ていた男の子が「うわ〜」と歓声を上げ、楽しみなながらも少しふざける姿がありました。けれど、練習時間外に曲を流すと、女の子はもちろん男の子も一緒に踊りだしました。「女の子のダンス可愛いなあ」と、言うお友だちもおり、それに対し女の子も「当たり前や〜ん」と、得意気に自慢する姿が、とても微笑ましく感じました。男の子の和太鼓が始まると女の子は、「はじまったよ！」と、手拍子しながら男の子の和太鼓を叩く姿に入っていました。お互いに褒めあい、楽しむ姿がある子たちの本番が楽しみです。
(二月二日)